

基礎分野 授業計画

授業科目及び時間数	心理学 1単位 30時間	
開講時期	1年次 後期	
担当教員	弓野憲一	
<p>科目のねらい・到達目標</p> <p>質の高い看護には、人の心理学的な理解が欠かせない。この講義（一部演習）では、「心理学をなぜ学ぶか」から出発して、感覚・知覚、学習、記憶、知能と創造性、問題解決などの認知心理学的分野を学び、動機づけ、葛藤と欲求不満についての行動的分野の理解を深め、発達と発達課題・発達障害について知り、自分のパーソナリティを測定し、悩みや心的な病気の発生メカニズムを理解し、それらの病気を克服するためのカウンセリングについて知る。さらによい人間関係をつくりだすための「様々なほめ言葉」をグループ演習の中で獲得する。</p> <p>各回の講義で出現する心理学的概念の基本的理解と応用をこの講義の達成目標とする。</p>		
授業計画・内容・担当教員		
1回目	心理学とは：心理学研究の歴史、心と体、なぜ心理学を学ぶのか？	講義
2回目	感覚と知覚：5感、感覚と知覚の違い、知覚の文脈効果	講義
3回目	学習：学習の三学説、経験に全依存しない言語の学習	講義
4回目	記憶：記憶のモデル、強い記憶獲得、短期記憶の性質（実験）	講義・小実験
5回目	動機づけ：その種類、欲求階層説、達成動機と民族・文化、	講義
6回目	葛藤と欲求不満：葛藤の種類、適応メカニズム、無意識と適応	講義
7回目	知能と創造性：測定法、両者の伸長法、両者の発達の違い	講義
8回目	創造的問題解決：新たな課題をブレインライティングで解決	講義・演習
9回目	発達とは何か：発達の理論、脳の発達、発達曲線	講義
10回目	発達段階と発達課題：知的発達の理論、段階相応の課題がある	講義
11回目	障害と発達：自閉症、AD/HD、うつ病、PTSD、燃え尽き症候群	講義
12回目	パーソナリティ：類型論と特性論、Y・G性格検査演習	講義・演習
13回目	ほめるの心理：知能、創造性、共感性に関する褒め言葉を創造	講義・演習
14回目	カウンセリングと傾聴：ロジャースの理論を学び傾聴訓練をする	講義・演習
15回目	試験	試験
評価方法	最終試験の成績（90%）と中間試験の成績（10%）を総合的に評価する。	
受講生に対するメッセージ	心理学を学ぶことによって、患者、周囲の人、自分自身についての理解が深まります。看護の世界でも役立つように、具体的な説明も加えますので、教科書の該当ページを予習して、講義に臨み、質問をすると、さらに学習が深まります。	
テキスト	心理学理論と心理的支援 中央法規	
参考書		